

第 9 回 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨

1. 開催日時 : 令和 3 年 2 月 12 日(金) 14:00~16:00
2. 場 所 : 尾原ダム管理支所(雲南市木次町平田 211-5)
3. 出席委員 : 石飛 厚志 委員長、作野 広和 委員、勝部 博 委員、内田 正男 委員、
景山 孝志 委員、勝田 康則 委員、花岡 俊直 委員、足立 和彦 委員、
武内 慶了 委員



4. 議事次第
 - 1) 開 会
 - 2) 挨拶 (委員長: 石飛 厚志 雲南市長)
 - 3) 出席者紹介
 - 4) 議 事
 - ① 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正
 - ② 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ③ 令和2年度のプロジェクト実施状況、令和3年度の実施プロジェクト(案)
 - ④ その他
 - 5) 閉 会
5. 配付資料
 - ・ 資料-1 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正
 - ・ 資料-2 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告
 - ・ 資料-3 令和2年度のプロジェクト実施状況、令和3年度の実施プロジェクト(案)

6. 議事要旨

1) 挨拶

- ・ このたび雲南市長に就任し、また本日、この委員会の委員長に就任させていただいた。
- ・ 尾原ダムは来年度で完成10周年を迎え、斐伊川流域の治水対策3点セットは残すところ下流部の大橋川拡張工事のみとなっている。この事業の早期完了のためにも、引き続き様々な機会を通じ、ダム事業に協力された周辺住民の皆様の思いを斐伊川流域圏全体にしっかりと伝えていく必要があると考えている。
- ・ 尾原ダム、さくらおろち湖周辺地域は、関係の皆様の御尽力により、様々なスポーツ大会や各種イベントが盛んに行われ、魅力的な観光、あるいは体験を通じて来訪者数年間14万人レベルとなる観光、交流の重要なエリアに成長している。
- ・ 今年度は新型コロナ対策のため、多くの大会やイベントを中止せざるを得ない状況だったが、そのような中でも、関係団体の皆様が協力して知恵を出し合い、地域の魅力を生かした新たな事業にチャレンジされた。
- ・ 今後とも、この地域が持つ地域資源を積極的に活用しながら、多様な皆様の結びつきによって、水源地域ビジョンが着実に推進され、さらなる発展につながることを強く期待している。
- ・ 本日は、忌憚のない御意見を頂くようお願いする。



2) 議事

① 尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会規約改正

- ◆ 規約改正について、事務局提案どおり承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 規約別表の委員名簿の変更(雲南市長、雲南県土整備事務所長、出雲河川事務所長)

② 尾原ダム水源地域ビジョン推進の取組状況報告

- ◆ 事務局より「第8回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会」以降の取組状況について報告があり、承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 第8回尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会の要旨
(尾原ダム水源地域ビジョン(後期版)、主な議論の紹介ほか)
- ・ さくらおろち湖活性化ネットワーク会議の活動報告
(さくらおろち湖祭りに代わる新たな取り組みほか)

【委員からの主な意見】

- ・ 新型コロナウイルス感染症の関係から山陽側や外国からといった集客が難しい中、ネットワーク会議で出された地域資源を活かした取り組みを県内在住者の方を対象として検討されたように、山陰側の諸地域からの集客を目指すのは妥当と考えるし、さらなる地域資源の掘り起しや取り組みの具体化が望まれる。

③ 令和2年度のプロジェクト実施状況、令和3年度の実施プロジェクト(案)

- ◆ 事務局より令和2年度のプロジェクト実施状況および令和3年度の実施プロジェクト(案)について説明し、承認された。

【事務局説明内容】

- ・ 全139件のプロジェクトのうち、新規プロジェクトとして3件、ダム下流への土砂還元の取り組み、さくらおろち湖植栽計画に基づく植樹の実施、小規模で多彩な体験プログラムであるさくらおろち湖FUNまつりの企画・運営を実施した。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、不特定多数が集まるイベントであるトレイルランニング大会やさくらおろち湖祭りなどが未実施となったほか、成果がなかったワカサギ料理の開発など34件のプロジェクトが未実施となった。
- ・ 令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら1つでも多くのプロジェクトを実施できるように検討し、実施する予定としている。
- ・ 令和4年度の尾原ダム完成10周年に合わせた企画も検討を進める。

【委員からの主な意見】

- ・ 尾原ダム周辺への訪問者のうち、県外からの訪問者数を把握することも保有すべき大事なデータであると考える。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける中、工夫して取り組んでいることに対し感謝する。
- ・ 土砂還元の取り組みの概要について説明を求める。
- ・ 新型コロナウイルス感染症に伴い、プロジェクトをやめる結論を出すのは簡単だが、過度に恐れず、正しく恐れることで、どうしたら実施できるかさらに知恵を絞っていただきたい。
- ・ 保育所に出向くなどのランバイクのような取り組みはさらに広げてもらいたい。
- ・ ワカサギがうまくいっていない中で、ダム上流のアユが好調だったことから、アユもいい観光資源の一つと考える。ワカサギもいろいろと試行錯誤を重ねながら頑張って取り組みたい。

- ・ ワカサギは、宍道湖でも身近であったが、現在は漁獲が上がっていない中、尾原ダムでの取り組みには期待しているし、この取り組みを通じて松江市の方に尾原ダムに理解を深めていただけるツールの一つとして、いいきっかけになると期待している。
- ・ ホシザキグリーン財団のシラウオの取り組みのように、ワカサギでも研究協力を求めるのも一つと考える。
- ・ 県外の来訪者数の調査に際し、来て欲しくないとの印象をもたれる恐れも考えられ、例えば観光による地域の活性化を目的としたアンケートであるとするなど配慮した対応が求められる。
- ・ ダム湖周辺の竹の管理について、コストにも上限があるため、処分費の軽減に向け、地域の活性化に向けた取り組みにうまくつなげられないかアイデア等をいただければと考えている。
- ・ 試行やチャレンジといった取り組みについて、しっかり効果等を整理し、次の取り組みにつながるように配慮してもらいたい。